

企画 朝日新聞社メディアビジネス局

広告



# 進化するC型肝炎治療

IFNアリーナは○副作用が軽いので高齢者にも処方できる、○慢性肝炎～初期肝硬変まで処方できる、○飲み薬なので通院回数が少なくて済む( IFNやペグIFNは注射薬のため毎日～週1回の通院が必要)……などが特長です。

何より、IFNでは効果がなかつた人・処方できない人・副作用が強くて治療継続できなかつた人などにも驚くほど高い効果があり、第

アスの六開け刺青違法薬物の注射など。思い当たる方はもちろんぜひ一度、肝炎ウイルス検査を受けてください。

またC型肝炎以外にも、アルコール性肝疾患や非アルコール性脂肪肝などが増えています。肝臓は沈黙の臓器。健康診断で肝機能に異常があれば、ぜひ早めに受診してください。(談)

構成するタンパクや増殖に必要な酵素などの機能をピント的に抑える「直接的抗ウイルス薬」。ですから治療開始前に専門の医療機関でC型肝炎ウイルスの遺伝子タイプを精査する必要があります。同ウイルスの遺伝子にはヘ1a、2b、2a、2bのタイプがあり、日本は1bが7割、2aと2bで3割近くを占めます。14年以降、アスナプレビル、ダクラタズビルなどIFNフリー薬が相次いで登場しましたが、遺伝子のタイプにより台帳薬が選択されます。

**肝機能に異常があれば速やかに受診を**

I FNフリー薬は今やC型肝炎ウイルス治療の第一選択薬で、今年中にさらに2種類の新薬が出現する予定です。ただ高額なのが課題ですが、指定の基幹病院・専門医で受診すれば国の医療費助成制度が利用できます。

近年のC型肝炎ウイルスの主な感染経路は、医療機関以外でのもので、そのリスクまでゼロになるわけではありません。

が効きにくい人がいるほか、高齢者や糖尿病、脳梗塞など既往症がある人にIFNは処方しにくく、さらにIFNの副作用(発熱、高血圧、血小板減少、うつ病など)が強くて治療を中断してしまう人もいました。

しかし、2014年からIFNに代わる新薬——IFNフリー薬が相次いで登場、高い治療効果を挙げています。

IFNフリー薬は処方できる対象が拡大したとはい、高血圧、糖尿病、腎臓病などの治療薬の中に併用できない薬も多いので、専門医による慎重な判断が求められます。

**IFNフリーで  
新たな時代へ**

一世代の IFN- $\gamma$  葉で 9% 第二世代で 95% 以上の患者さんに、ウイルス消失が認められています。昨年、レディパスビルとソフオスビルという 2 種類の合剤の IFN フリーの一の新薬が承認されました。この新薬は変異したウイルスにも著効性があり、いま最も期待される IFN フリー薬の一つといえます。

肝がん(原発性)の60~65%はC型肝炎ウイルス感染が原因とされる。感染から慢性肝炎～肝硬変～肝がんへと長年かけて進行するわけだが、C型肝炎の国内感染者は推計210万人で、通院治療者は推計70万人という。肝がん予防の面からC型肝炎ウイルス感染の早期発見・早期治療が大切だが、近年その治療において、著効性の高い画期的な新薬の開発が相次いでいる。そこでC型肝炎の薬物療法について佐田病院の渡邊洋氏にお聞きした。



飲み薬で体にもやさしく～